

記者発表				
月/日(曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤルイン)	発表者名 (担当者)	その他配布先
7月16日(木) 14:00	県立考古博物館 埋蔵文化財課	079(437)5595	副館長兼総務部長 川由 伸一 (埋蔵文化財課長 鐵 英記)	中播磨県民センター

さいむらいせき
才村遺跡（姫路市広畑区才）の発掘調査成果と現地説明会について

内 容

兵庫県教育委員会では、県道整備事業に伴う才村遺跡の発掘調査を、(公財)兵庫県まちづくり技術センターに委託して進めています。

今年4月から実施している調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡など多くの遺構が見つかりましたので、調査成果を広く県民に公開するため現地説明会を開催します。

【調査成果】

別紙概要のとおり

【現地説明会】

日時：令和2年7月18日(土) 13:30～15:00

場所：才村遺跡発掘調査現場（姫路市広畑区才）

※新型コロナウイルス感染症対策のためマスクの着用をお願いします。

〈現地説明会に関する問い合わせ先〉

才村遺跡発掘調査現場事務所

担当 野田優人技術職員、岸本一宏技術専門員

TEL079-238-2488

(平日 12:10～13:00、17:00～18:00)

〈遺跡の内容に関する問い合わせ先〉

(公財)兵庫県まちづくり技術センター

埋蔵文化財調査部 調査第2課長 篠宮 正

TEL 079-437-5561 (平日 9:00～17:30)

兵庫県立考古博物館

総務部 埋蔵文化財課長 鐵 英記

TEL 079-437-5595 (平日 9:00～17:30)

才村遺跡調査成果の概要

1 発掘調査の概要

遺跡名	才村遺跡（さいむらいせき）
遺跡の種別	集落遺跡
遺跡の時代	古墳時代～鎌倉時代
所在地	姫路市広畑区才
調査面積	約1,700㎡
調査期間	令和2年4月23日～8月28日（予定）
調査原因	広畑青山線社会資本整備総合交付金事業
調査主体	兵庫県教育委員会
調査機関	（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

2 調査成果の概要

才村遺跡は夢前川下流右岸に立地する遺跡です。昨年度の調査区の北側を調査しています。本調査では2か所の調査区を設け、北からC①区、B②区と呼称しています。（添付図面を参照してください。）

現在、C①区とB②区の上層（1面目）は調査を終え、B②区の下層（2面目）を調査しています。これまでの調査で、古墳時代から中世に至る多くの遺構が見つかっています。

【古墳時代～飛鳥時代（約1300～1600年前）】

- ◆B②区の下層（2面目）で竪穴住居跡が20棟以上見つかっています。昨年度調査したものと合わせると40棟以上になり、規模の大きい集落であったことが明らかになりました。
- ◆この他、小児のものと推定される小型木棺墓、直径70～80cmほどの柱穴をもつ桁行3間×梁行3間の掘立柱建物跡なども見つかりました。流路からはこの時期の土器が大量に出土しています。

【奈良～平安時代初め（約1200～1300年前）】

- ◆B②区の上層（1面目）で暗文土器や稜椀など官衙的な様相を示す土器が出土しています。
- ◆昨年度の調査でも硯や緑釉陶器など、一般の集落から出土しない特殊な遺物が出土しており、近辺に建物群が存在している可能性があります。

【平安時代中頃～鎌倉時代（約800～1000年前）】

- ◆C①区で掘立柱建物跡3棟が見つかったほか、B②区上層（1面目）でもこの時代の柱穴がたくさん見つかりました。
- ◆昨年度の調査で見つかった柱穴と合わせると総数1000基にも及び、多数の掘立柱建物があったものと推定されます。

【室町時代～江戸時代（約150～500年前）】

- ◆『高尾の高畑』と呼ばれる高台の下層で室町時代の掘立柱建物跡や江戸時代の

溜^ため井戸が見つかり、この高台が形成される以前の土地利用や形成過程が明らかになりました。

3 まとめ

◆才村遺跡では弥生土器も見つっていますが、本格的に集落が営まれるのは古墳時代中期末から後期（約 1500 年前）です。この集落は大規模なものであり、飛鳥時代まで続いています。

◆奈良～平安時代の初めは遺構が希薄ですが、特殊な遺物が見ついています。今後の調査で遺跡の性格が明らかになるでしょう。

◆平安時代中頃から鎌倉時代にかけて多くの掘立柱建物が営まれ集落が繁栄しますが、室町時代以降掘立柱建物は減少し、江戸時代には高台が形成されたようです。

才村遺跡発掘調査現場



1/1,000

0 50m

才村遺跡発掘調査写真



古墳時代の竪穴住居跡（B②区下層）



古墳時代の小型木棺墓（B②区下層）



平安時代中頃～鎌倉時代の掘立柱建物跡
（C①区・南から）